

EUSI メールマガジン Vol. 064
「欧州の街並み、日本の街並み」(佐伯英隆)

EUSI (EU Studies Institute in Tokyo)は、一橋大学・慶應義塾大学・津田塾大学の3校のコンソーシアムによるEUに関する教育・研究・広報を行う拠点です(詳しくは以下をご覧ください)
http://eusi.jp/content_jp/aboutus/about_eusi/

【EUSI Commentary Vol. 046】

「欧州の街並み、日本の街並み」

佐伯英隆 (京都大学公共政策大学院特別教授、イリス経済研究所代表取締役)

近年、とみに外国人観光客が増えている。我が国の文化、景色、食、習慣、歴史的遺物に興味を持って訪れてくれる事は喜ばしい事である。ただ、彼らが、日本の「伝統的街並み」なるものに失望せねば良いが、とも思う。

外国人観光客が魅力的と感じる伝統的な街並みが保存されていると言っても、我が国では殆どの場合、町のごく一部がそうになっているだけで、ヨーロッパのように町全体が保存されている例は無い。

毎年多くの観光客が訪れる倉敷の美観地区など、川沿いにせいぜい三～四百メートル、歌舞伎の「書割(かきわり)」の様に残された街並みを一步外れると、何の変哲もない雑然として地方都市の街並みが広がっている。京都ですら、いわゆる京町屋(きょうまちや)の地区や伝統的神社仏閣地区で、「観光的国際競争力」を持つ地域は、市域のせいぜい五分の一程度、残りはクモの巣のような電線、テレビアンテナ、無秩序な看板などに囲まれたパッとしない街区が延々と広がっている。

このように、街並みに関し、我が国と欧州にこれほどの開きが生じた原因は、幾つか考えられるが、小生は、建築や都市工学の専門家でもなければ、社会科学者でもなく、あくまで経験に基づく主観でしかないのです、その適否や、より深い考察は読者にお任せする。

一. 「綺麗にしよう」と考える範囲の違い

人間だれしも自分の生活する周辺環境を「綺麗に」したいと思う。それは、日本人もヨーロッパ人も違いは無い。ただ、日本人とヨーロッパ人とは、その周辺環境の「範囲・広がり」に差が有るように思う。

...

(続きはこちら↓)

<http://www.hit-u.ac.jp/kenkyu/eusi/eusicommentary/vol46.pdf>

【EUSI イベントご案内】

1. EUSI 国際シンポジウム

「ユーロの試練に抗して - 欧州の治癒力と新たな EU 学の展望」

日時: 2015年3月9日(月) 9:10-18:10

場所: 津田塾大学千駄ヶ谷キャンパス 津田ホール
主催: EUSI 後援: 駐日 EU 代表部 言語: 英語 (同時通訳付き)

参加: 無料 (事前申し込みをお願いしますが、当日の受付も可能です)
1. 名前、2. 所属、を記入し、3月6日(金) までに、eメールで EUSI 津田 (eusi@tsuda.ac.jp) にお申し込み下さい。

歓迎挨拶 國枝マリ (津田塾大学学長)
開会挨拶 ヴィオレル・イステイチョアエア＝ブドゥラ (駐日 EU 大使)
基調講演 杉崎京太 (津田塾大学教授)

特別講演「歴史から見た国際金融危機」
Youssef Cassis (欧州大学院(EU)ロベール・シューマンセンター教授)

第一セッション
「ユーロ危機の最近の状況をめぐって」
報告 Zsolt Darvas (Bruegel 研究員), 討論 川崎健太郎 (東洋大学准教授)
「ギリシャ危機の現状」
報告 Panos Tsakloglou (アテネ経済大学), 討論 神江沙蘭 (関西大学准教授)

第二セッション
「アイルランドと欧州経済」
報告 Bernadette Andreosso-O'Callaghan (アイルランド リムリック大学教授)
「ユーロ危機とドイツ経済」
報告 Werner Buhrer (ミュンヘン工科大教授), 討論 網谷龍介 (津田塾大教授)

第三セッション ラウンドテーブル
「問題提起: EU における社会的結束と回復力をめぐって」
報告 Henk Overbeek (アムステルダム自由大学名誉教授、ジャンモネチエア)
コメント Zsolt Darvas, 神江沙蘭
<http://eusi.jp/outreach/conference-symposium/2015-3-9/>

2. EUSI 国際シンポジウム「日本における死刑廃止の課題と見直し」

日時: 2015年3月16日(月) 13:00-18:15
場所: 一橋大学一橋講堂 (千代田区一ツ橋 2-1-2 学術総合センター内)
言語: 日英同時通訳

事前登録が必要です。
1. 名前、2. 所属、を記入し、3月6日(金) までに、eメールで EUSI 事務局 (info@eusi.jp) にお申し込み下さい。

総合司会: 川崎恭治 (一橋大学国際・公共政策大学院院長、EUSI 執行委員)
挨拶 青木人志 (一橋大学大学院法学研究科長)
挨拶 ジョナサン・ハットウェル (駐日 EU 公使)(予定)
基調講演 キャロライン・ホイル (オックスフォード大学刑事法教授)

第1部: 欧州ではなぜ死刑が廃止できたのか?
シュテファン・ヘルツベルク (駐日ドイツ公使・政務部長)
討論・質疑応答 (司会: 葛野尋之 (一橋大学大学院法学研究科刑事法教授))
青木人志 (一橋大学大学院法学研究科長)
青木孝之 (一橋大学大学院法学研究科刑事法教授)

キャロライン・ホイール (オックスフォード大学教授)

第2部: 日本ではなぜ廃止できないのか?(どうすれば廃止できるのか?)

本庄武 (一橋大学大学院法学研究科刑事法教授)

佐藤舞 (オックスフォード大学リサーチオフィサー)

田鎖麻衣子 (弁護士・日弁連死刑廃止検討委員会委員)

討論・質疑応答 (司会: 橋本正博 (一橋大学大学院法学研究科刑事法教授))

シュテファン・ヘルツベルク (駐日ドイツ公使・政務部長)

キャロライン・ホイール (オックスフォード大学教授)

王雲海 (一橋大学大学院法学研究科刑事法教授)

<http://eusi.jp/outreach/conference-symposium/2015-3-16/>

【EUに関するニュース】

- 2015年2月1日 ダーイシュ、後藤健二氏殺害と見られる映像公開。モゲリーニ上級代表、非難声明
- 2015年2月2日 EU報道官、エジプトの裁判所の被告183名への死刑判決は国際人権義務違反と非難声明
- 2015年2月2日 EU報道官、エジプト当局のジャーナリスト1名拘束解放を評価、他2名の解放要求の声明
- 2015年2月3日 欧州委員会、多国籍企業の課税逃れ調査をベルギーにも拡大する意向を表明
- 2015年2月3日 EUと中国、ICT(情報通信技術)協力協議。EU投資計画参入や第5世代技術開発などで合意
- 2015年2月4日 ツイプラス・ギリシャ首相、ユンカー委員長・トゥスク常任議長らEU首脳と会談
- 2015年2月4日 ECB、ギリシャ国債適格担保規定の特例措置撤廃、緊急流動性支援(ELA)承認更新を発表
- 2015年2月4日 モゲリーニ上級代表、ダーイシュのヨルダン軍パイロット焼殺に対する非難と団結声明
- 2015年2月4日 Eurostat、2014年12月小売売上高(季節調整済)はユーロ18国・EU28国共に前月比+0.3%
- 2015年2月5日 欧州委員会、冬季経済見通し発表。経済成長の一方で加盟国間格差、インフレ減速など
- 2015年2月5日 欧州委員会、ポスト2015年開発アジェンダ発表。持続可能な開発目標に向け広範な協力
- 2015年2月5-6日 独仏首脳、キエフ及びモスクワ訪問。ウクライナ危機への新提案をめぐって仲介外交
- 2015年2月5-8日 バイデン米副大統領訪欧、トゥスク常任議長・ユンカー委員長らと対ロ制裁など協議
- 2015年2月6日 「日EU協力に関するハイレベル・シンポジウム」ラトビアで開催。日EU関係等意見協議
- 2015年2月6日 EU、シリア・イラク危機に対する初のEU包括的戦略発表。人道支援や拡大阻止など骨子
- 2015年2月6日 モゲリーニ上級代表ら、世界女性器切除(FGM)根絶の日に宛て共同声明
- 2015年2月8日 ツイプラス・ギリシャ首相、月末期限のトロイカ支援延長拒否、暫定支援策で交渉意向
- 2015年2月9日 EU外務理事会、ウクライナ危機をめぐる対ロ制裁拡大やテロ対策強化などを採択
- 2015年2月10日 ダーイシュ拘束中の米女性人道活動家ミュラーさん殺害。モゲリーニ上級代表ら声明
- 2015年2月11日 ユーロ圏財務相会合(ユーログループ)臨時会合、ギリシャ支援問題で合意に至らず
- 2015年2月11日 コザス・ギリシャ外相、EUの対ロ制裁支持せぬと表明。ギリシャ支援めぐりロへ秋波
- 2015年2月11日 米 Baker & McKenzie、2014年中国の対EU投資額は前年2倍の180億ドルとの調査報告
- 2015年2月11-12日 独仏ロウクライナ4カ国首脳、ミンスクでウクライナ停戦合意。15日より停戦実施
- 2015年2月12日 欧州理事会緊急会合、ウクライナ危機・財政構造改革等協議、テロ対策共同声明発表
- 2015年2月12日 Eurostat、2014年12月鉱工業生産はユーロ圏18カ国で前月比同、EU28カ国で同+0.1%
- 2015年2月12日 シュヴァイスグート駐中EU大使・楊燕怡駐EU中国大使、EU中国外交40周年に向け祝辞
- 2015年2月13日 EU及びG7首脳、ウクライナに関する共同声明。ミンスク合意遵守やIMF支援枠組支持等
- 2015年2月13日 ギリシャ及び欧州委員会・ECB・IMFトロイカ会合、ギリシャ支援問題で緊急協議
- 2015年2月13日 露ベドモスチ紙、ロシアの対EUガス価格は今年最大35%下落との経済発展省予測発表
- 2015年2月13日 WTO紛争処理小委員会、中国の特殊鋼管への関税は不当との日・EU主張を大部分支持
- 2015年2月13日 Eurostat、2014年10-12月GDPはユーロ圏18カ国で前期比+0.3%、EU28カ国で同+0.4%
- 2015年2月14日 トゥスク常任議長、デンマークでの表現の自由の集会での銃撃事件に対し哀悼の声明
- 2015年2月15日 ウクライナ停戦発効。親ロ派、デバリツェボでOSCE停戦監視立入り拒否、早くも暗雲

【編集後記】

今回の巻頭エッセイは、京都大学公共政策大学院の佐伯英隆特別教授に執筆していただきました。

欧州の街並みと日本の街並みの違いが、家や街というものに対するヨーロッパ人と日本人の考え方や意識の違いによるのではないかと具体的に論じられています。さらに、それぞれが持っている視野の広がりや時間感覚の違いを指摘するなど、とても興味深いエッセイとなっていて、多くの人が「なるほど」と思い当たることが多いのではないのでしょうか。「商品」にもオーラはありますが、「街並み」にもオーラを感じることはできるでしょう。EUSI では、3月に大きなシンポジウムを二つ企画しています。一つは、死刑廃止問題についてのEUと日本のスタンスを比較して議論するものであり、もう一つは、ユーロ問題に揺れるEUの状況を多角的に検討するものです。ちょうど同じ時期に仙台で国連主催の災害に関する大規模な国際会議が開かれるにも関わらず、EUSIのシンポジウムにも、EU代表部の大使、公使、専門家等に出席していただくことになっています。いずれも大変重たいテーマですが、欧州からも著名な学者が参加し、充実した議論となることが期待されています。どうか奮ってご参加下さい。

(藤川哲史・EUSI・一橋大学・EUSI メールマガジン 編集担当)

あまりに仕事や研究ばかりに追われる殺伐とした生活を送るとどんどん性格が暗くなる気がするため、1・2カ月に一度は博物館や美術館に行って心の栄養を補給するようにしています。そんな今回のお話は「ルーブル美術館展」。先日2月21日より六本木にある新国立美術館で始まりました(6月からは京都で開催されます)が、ルーブル美術館所蔵の作品の中から「日常を描く風俗画」というテーマで、レンブラントやカラッチ、ルーベンスなど16世紀から19世紀に活躍したヨーロッパの画家たちの作品が展示されています。今回の目玉は、フェルメールの作品「天文学者」。フェルメールの作品は世界で37点しかなく、2000年日蘭国交400周年には大阪市立美術館でその中の5点が、また2008年の日蘭修好150周年では、東京都美術館にその中の7点が世界から集められて展示されるなど、希少性が高く静謐で美しい世界観に溢れた画風は多くの人々に愛されています。また年度明けの4月からは、「大英博物館展」が東京都美術館で開催されます(7月からは九州・9月からは神戸で開催)。大英博物館が誇る700万点もの所蔵品の中から100作品(190点)を集め、時は先史時代・古代から現代まで、また地域ではヨーロッパから中東・アジア・アフリカ・オセアニアに至るまで、時間と空間を越えた人間の営みの歴史とも言える断片を垣間見ることができます。ところでロンドンにあるもう一つの大きな美術館といえば、トラファルガー広場にあるナショナル・ギャラリーですが、このナショナル・ギャラリーを舞台にしたドキュメンタリー映画「ナショナル・ギャラリー 英国の至宝」が渋谷のBunkamuraをはじめ全国で公開されています。ナショナル・ギャラリーで働く美術修復士やキュレーターたち、そしてここを訪れる人々など世界最高峰の美術館の舞台裏を描く作品です。EUSIをはじめ多くの大学では春休みを迎えるなかで、すこしでもヨーロッパの誇る多彩な芸術に触れてみてはいかがでしょうか。

(林 大輔・EUSI 慶應分室・EUSI メールマガジン 編集担当)

EUSI (EU Studies Institute) in Tokyo

〒186-8601 東京都国立市中 2-1
一橋大学 マーキュリータワー#3504 EUSI 事務局
TEL: 042-580-9117 / E-mail: info@eusi.jp

ご意見、ご感想、配信登録・配信停止、その他メールマガジンについての
問い合わせにつきましてはこちら
E-mail: info@eusi.jp
